

2024年5月16日
愛知県美術館
プレスリリース

アブソリュート

2024.7.18 thu - 9.23 mon (holiday)

チェアーズ

椅子の機能は、座る姿勢を支えるというだけにとどまりません。権威の象徴として表されることもあれば、安楽や拘束のための道具となることもあり、また複数が集まることでコミュニケーションの場を生み出すこともある椅子。椅子は多くのデザイナーや建築家の創造性を喚起する究極のテーマであると同時に、アーティストにとっても魅力的なモチーフとなってきました。アーティストたちは椅子と結びつく多様なイメージをとらえ、作品を通じて社会の中の不和や矛盾、個人的な記憶や他者との関係性などを浮かび上がらせてきました。現代美術における椅子は、日常で使う椅子にはない極端なあり方、逸脱したあり方によって、私たちの思考に揺さぶりをかけます。

本展では、こういった作品を「アブソリュート（絶対的・究極的）」な椅子と呼ぶことにして、主に戦後から現代までの平面・立体・写真・映像・ダンスなど幅広いジャンルの作品約80点における「椅子なるもの」の表現に着目し、椅子という身近な存在から社会や人間の有り様を考察します。

現代美術のなかの椅子なるもの

- 展覧会名 | アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの
Absolute Chairs: The Representation of the Chair in Contemporary Art
- 会期 | 2024年7月18日（木）—9月23日（月・振休）[59日間]
- 開館時間 | 10:00 - 18:00 金曜日は 20:00 まで（入館は閉館の30分前まで）
- 休館日 | 毎週月曜日（ただし8月12日 [月・振休] と9月16日 [月・祝]、9月23日 [月・振休]は開館）、8月13日（火）、9月17日（火）
- 会場 | 愛知県美術館（愛知芸術文化センター10階）〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
美術館ウェブサイト <https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>
- アクセス | 地下鉄東山線・名城線「栄」駅 / 名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、
オアシス21連絡通路利用徒歩3分
- チケット | 一般 1,500 (1,300) 円
高校・大学生 1,300 (1,100) 円
中学生以下無料
- ※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金です。
※上記料金で本展会期中に限りコレクション展もご覧になれます。
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳（愛護手帳）、特定医療費受給者証（指定難病）のいずれかをお持ちの方は、各券種の半額でご観覧いただけます。また付き添いの方は、各種手帳（「第1種」もしくは「1級」）または特定医療費受給者証（指定難病）をお持ちの場合、いずれも1名まで各券種の半額でご観覧いただけます。当日会場で各種手帳（ミライロID可）または特定医療費受給者証（指定難病）をご提示ください。付き添いの方はお申し出ください。
※学生の方は当日会場で学生証をご提示ください。
- 主催 | 愛知県美術館、中日新聞社
- 協力 | 株式会社国際デザインセンター、国立民族学博物館
- 問合せ先 | 愛知県美術館 TEL 052-971-5511（代）

みどころ

■アーティストによる椅子の探求。なぜ椅子は魅力的なのか？

椅子に魅了されてきたのはデザイナーや建築家だけではありません。アーティストもまた、椅子というモチーフに惹きつけられてきました。

既製品を美術作品に用いた最初の「レディメイド」であり、戦後美術のあり方を決定づけたとされるマルセル・デュシャンの《自転車の車輪》(1913年)に、椅子が使われていることは興味深く思われます。本展では、この作品を原点として扱い、戦後から現代までのアーティストによる椅子の表現に着目し、その根源的な機能や象徴の読み解きを通して私たち人間の営みや社会について考えます。

■日本初公開！ベルギーを代表するダンス・カンパニー、ローザスのインスタレーション

2013年に開始された《Re: ローザス!》は、ローザスの記念碑的な作品《ローザス・ダンス・ローザス》の中でも出色と言える椅子を使ったパートの振り付けのレクチャーを公開し、このダンスを踊った映像を募集するというプロジェクトです。本展では世界中から投稿された700本近い動画の中から半数の約350本をインスタレーションとして構成したものを、日本で初公開します。

会期中は、ローザスの創設メンバーの一人である池田扶美代氏をベルギーから講師として招聘し、一般の方が参加できるダンスワークショップを開催。愛知芸術文化センターのパブリック・スペースで成果発表（フラッシュモブ）を行い、撮影した映像をインスタレーションの一部として展示します。

■国内外のアーティストによる新作を出品。日本初出展のアーティストも

日本初出展となるミシェル・ドゥ・ブロワによる新作《樹状細胞》は、日本国内で入手した会議椅子を素材として、アーティストが日本に滞在して制作しました。球体状に組み上げられた約40脚の椅子は、ヒエラルキーのない共同体のようにも、外部から身を守る細胞のようにも見えます。

檜皮一彦による新作は、自身も普段から使用する車椅子の、車輪の回転を動力としてマフラーを編む「車いす編み機」で、名古屋の街を観測するプロジェクト。「車いす編み機」を押しながら街を歩くと、地面の凸凹やバリアによって車椅子が振動し、できあがるマフラーの目地にはほつれや歪みが生じます。檜皮は名古屋の観光スポットを10時間かけて歩き、街の起伏をマフラーに記録しました。

副産物産店は、埼玉と愛知のアーティストのスタジオや美術大学、そして会場となる埼玉県立近代美術館と当館を訪れて廃材を回収。展示会場で来場者が座って休むことができる椅子を制作しました。特に当館所蔵のオーギュスト・ロダン《歩く人》を輸送するために使われていた箱（クレート）を用いた作品にご注目ください。

その他に、シンガポールの住宅街にある敵対的建築物、いわゆる「排除アート」を飾り付けて撮影したダイアナ・ラヒムも、日本初出展のアーティストです。



宮永愛子《waiting for awakening -chair-》2017年、作家蔵



ローザス《Re: ローザス!》
2013-2024年（継続中）
Courtesy of Rosas



ミシェル・ドゥ・ブロワ《樹状細胞》2024年、作家蔵



副産物産店《Absolute Chairs #1_rodin's crate》2024年、作家蔵

関連イベント

ダンスワークショップ

「《Re: ローザス!》を踊る！」

ローザス創設メンバーの一人・池田扶美代を講師として招聘。本展出品作《Re: ローザス!》のための椅子を使ったダンスを踊り、撮影した映像が作品の一部として展示されます。

[日時] 7月23日(火) 15:00-16:30 レクチャー (Aグループ)

7月24日(水) 10:30~12:00 レクチャー (Bグループ)

15:00~16:30 レクチャー (Cグループ)

7月25日(木) 13:30~16:00 成果発表(全グループが集まりリハーサル・ダンス発表・動画撮影)

[講師] 池田扶美代

[会場] 愛知芸術劇場大リハーサル室(愛知芸術文化センター地下2階)

[対象] 小学校4年生以上のどなたでも

※レクチャー(7月23日もしくは24日)と成果発表(7月25日)の2日ともに参加できる方を対象とします。

[定員] 各回30名 ※参加無料・要申込(先着順・定員に達し次第、受付終了。申込方法については、当館ウェブサイトをご覧ください。)

[申込締切] 7月9日(火)

[共催] 愛知県芸術劇場

[後援] ベルギー大使館

[同時期開催] 愛知県芸術劇場「池田扶美代—Rosas レポートリークラス」

日程: 7月21日[日]、7月22日[月]、7月23日[火]、7月24日[水]、7月25日[木]

対象: ダンス・舞台経験者(ジャンル不問)で、全日程に参加可能な方

共催: 愛知県美術館 主催・問い合わせ先: 愛知県芸術劇場 052-211-7333

ワークショップ

「walkingpractice / CODE: Knitting_record [SPEC_APMoA]

檜皮一彦(本展出品作家)と共に、車椅子の車輪の回転を動力にしてマフラーを編む「車いす編み機」を連れて名古屋の街を歩きます。「車椅子編み機」は地面の凸凹を目地の乱れとしてマフラーに記録する作品です。作品に実際に触れながら、街のバリアについて考えてみませんか。

[日時] 7月27日(土) 10:30~12:30、15:00~17:00

[対象] どなたでも

[集合場所] 愛知県美術館ロビー

[定員] 各回8名 ※参加無料・要申込(先着順・定員に達し次第、受付終了)

[申込締切] 7月13日(土)

ワークショップ

「副産物産店と椅子なるものを作ってみよう」

副産物産店(本展出品作家、矢津吉隆・山田毅)と一緒に、本展の開催地となった埼玉と愛知のアーティストのアトリエや美術大学で収集した廃材/副産物を使って、座れそうなものを作ります。2人のこれまでの活動や作品についてレクチャーを聞いたあとで、色々なかたち・素材の副産物でどのようなものができるか考えます。最後は自分が作った「椅子なるもの」について解説していただきます。

[日時] 8月18日(日) 13:30-15:30 (13:00 開場)
[対象] 小学校4年生以上のどなたでも
[集合場所] アートスペース E・F (愛知芸術文化センター12階)
[作業場所] チケット売り場横スペースおよび屋外庭園 (愛知芸術文化センター10階)
[定員] 15名 ※参加無料・要申込 (先着順・定員に達し次第、受付終了)
[申込締切] 8月4日(日)

対談

「木下知威×伊藤亜紗 椅子と芸術と身体」

木下知威(本展カタログ寄稿者、歴史学者)と伊藤亜紗(美学者)が本展について語り合います。

[日時] 8月31日(土) 13:30-15:00 (13:00 開場)
[登壇者] 木下知威(本展カタログ寄稿者、歴史学者)
伊藤亜紗(美学者)
モデレーター: 鵜尾佳奈(当館学芸員)

[会場] アートスペース A (愛知芸術文化センター12階) ※聴講者向け手話通訳あり
[定員] 180名 ※申込不要・聴講無料。開始時刻に会場にお集まりください。

ギャラリートーク (学芸員による展示説明会)

[日時] 8月11日(日)、8月17日(土)、9月14日(土) 各回 11:00-11:40
7月19日(金) 18:30-19:10
[会場] 愛知県美術館展示室内
[定員] 各回先着30名 ※申込不要・チケットをお持ちのうえ開始時刻にロビーにお集まりください。

図録

『アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの』
[価格] 3,300円(税込)
[頁数] 172頁(カラー116頁、モノクロ56頁)
[論考執筆] 建畠哲(埼玉県立近代美術館館長)、山口恵里子(筑波大学教授)、木下知威(東京工業大学)、佐伯綾希(埼玉県立近代美術館学芸員)、鵜尾佳奈(当館学芸員)
[デザイン] 大溝裕(Glanz)
[編集・制作・発行] 平凡社

「アブソリュート・チェアーズ」広報用画像申込書

※ご掲載にあたっての注意事項

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的としたものに限らせていただきます。ご使用可能期間は本展覧会終了までです。
- ・ご使用の際は下記のキャプション情報（作家名、作品名、所蔵者名、画像クレジット等）を全てご掲載ください。
- ・画像は全て全図でご使用ください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・展覧会情報の確認のため、校正原稿を以下の問い合わせ先に FAX またはメールでお送りください。
- ・掲載誌（紙）、録画 DVD 等を事務局宛に 1 部ご惠贈願います。ウェブ媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。

媒体名： _____

ジャンル： _____

掲載・放送予定日： _____

貴社名： _____

ご担当者名： _____

E - m a i l : _____

所在地：〒 _____

電話： _____

問い合わせ先／校正原稿等の送付先

展覧会に関するお問い合わせ

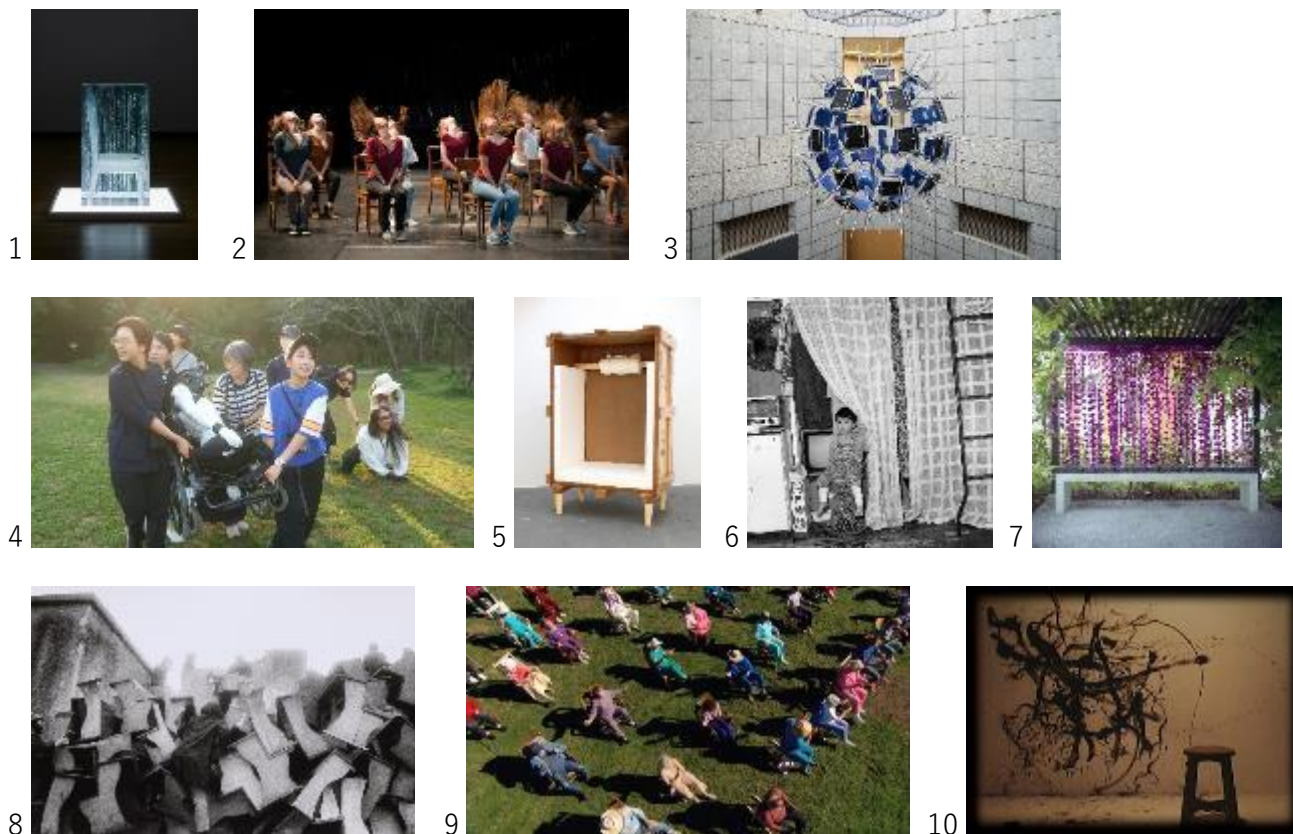
愛知県美術館（担当：鶴尾、石崎）

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

TEL: 052-971-5511（代）／FAX: 052-971-5604

E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp

「アブソリュート・チェアーズ」 広報用画像



1. 宮永愛子 《waiting for awakening -chair-》 2017 年
写真：木奥恵三 ©MIYANAGA Aiko Courtesy of Mizuma Art Gallery
2. ローザス 《Re: ローザス！》 2013-2024 年（継続中）、アンネ・ファン・アールスホットによる 《Re: ローザス！》 ワークショップ「マリア・ボードシャプ・リセウム（MABO）が《ローザス・ダンス・ローザス》を踊る」カーイテアター、ブリュッセル、2013 年
©Anne Van Aerschot Courtesy of Rosas
3. ミシェル・ドゥ・ブロワン 《樹状細胞》 2024 年
写真：加藤健
4. 檜皮一彦 《walkingpractice/CODE: Evacuation_drills[SPEC_MOMAS]》 2024 年、作家蔵
5. 副産物産店 《Absolute Chairs #1_rodin's crate》 2024 年、作家蔵
6. 潮田登久子 《マイハズバンド》 1981 年／2023 年、作家蔵
7. ダイアナ・ラヒム 《インターベンションズ》 2020 年-、作家蔵
8. 渡辺眸 《東大全共闘 1968-1969》 1968-69 年／2014 年、作家蔵
9. アンナ・ハルプリン 《シニアズ・ロッキング》 2005 年／2010 年 Courtesy of ZAS Film AG
10. 石田尚志 《椅子とスクリーン》 2002 年